

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676100235		
法人名	社会福祉法人 豊生会		
事業所名	グループホーム 隼人		
所在地	鹿児島県 霧島市 隼人町 松永3630番地3		
自己評価作成日	平成24年2月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	県ホームページより
----------	---------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成24年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

温泉が湧き出る一角で緑に囲まれた団地内にあり、天気の良い日は散歩等、景色を楽しまれています。入浴も温泉浴でアトピー・神経痛・肩こり・リュウマチ・胃腸障害に効果があり、かけ流し湯でゆっくりと温泉浴を楽しんで頂いています。夏は敷地内で焼肉会、冬は庭で餅つき・そば打ちを恒例行事とし地域住民との交流を図っています。お正月は、初詣に近くの鹿児島神宮、ドライブを兼ねて霧島神宮と参拝にお連れしています。外出も利用者様の体調や天気を見ながらお連れし、ご家庭で過ごす時と同じように職員は家族のような気持ちで接しています。健康管理として、水分補給を充分に心掛けています。なかなか摂取されない方はゼリー、ジュース等内容を替えて提供しています。また、美味しい食事を召し上がって頂き活力のある生活をして頂くように心掛けています。毎日の健康観察により体調不良の早期発見・早期対応に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日当山温泉郷近くに位置し、小高い住宅地の中にホームはある。同敷地内に2階建て造りの建物及び木造平屋造りが並び3ユニットが行き来できる。日当たりも良く、庭先のテラスでは、ゆっくりとお茶を楽しむことができる。リフト浴や大浴場を装備しており、かけ流しの温泉を気持ちよく楽しむ利用者の姿が見られる。利用者の重度化に伴い、職員は、毎月のオムツの使用を減らすために新商品を取り入れたり、使い方の勉強会を予定するなど力を入れている。ホームは、毎月利用者状況を便りて報告するほか、写真も添えるなど家族より多くの安心の声が寄せられている。職員は、利用者の思い思いに添ったケアが実現できるように日々取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示したり職員会議やユニットミーティングにおいて理念の取り組みについて話し合い共有をはかっている。職員は、日々一人ひとりの利用者が笑顔で過ごせるように努力している。	理念は、ホーム開設時に作成され、毎朝唱和している。月1回の職員会議などで共有し、「あなたらしく過ごせる」ように個々に応じたケアができるように取り組んでいる。	ホームは、理念についての理解を深め、意識した支援につながることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の人と出会った時は気軽に挨拶や会話をしている。ホーム内の敷地で夏はバーベキュー大会、冬は庭で餅つき・そば打ちを行い老人会、子供会、地域住民の方が参加している。保育園の運動会や法人開催の夏祭りへの参加、中学生の職場体験など地域との交流に努めている。	老人クラブ会長や運営推進会議の中で地域情報を収集している。地域の方をホームの行事へ招待したり、ボランティアの受け入れなどを通じ、地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の相談や見学、職場体験の受け入れを行い人材の育成の貢献などを行っている。地域交流の中でいろいろお話させていただき地域貢献が出来ないか検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に開催しホームの状況・利用者様の様子・行事活動など報告しメンバーで質疑応答をしている。地域のメンバーからのアドバイスで地域の老人会との交流に活かしている。	会議は、2ヶ月毎に開催され、行事報告や利用者の受診状況、意見などが議事録されている。ホームは、災害用のスロープを設置するなどサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者より日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催で市町村担当とは、相談や報告など話し易い関係にある。霧島市主催の健康福祉祭りには市と共同で準備をし、共に参加している。地域包括主催の研修会にも参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者より認知症の講話依頼を受けたり事業所はスプリンクラー設置相談をするなど協力関係を築いている。又、市主催の健康福祉祭りを協働で取り組み、ホームの作品を出展するなど積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人主催で身体拘束委員会を開催しその中で事例を交え取り組んでいる。職員は鍵を掛けることの弊害を理解して、居室や玄関に鍵を掛けないケアに取り組んでいる。職員は出掛ける傾向のある方を把握し、見守りの対応をしている。	外出傾向にある利用者に対しては、職員が付き添い散歩ができるように工夫している。マニュアルを作成しているが、職員は勉強会の実施に至っていない。	身体拘束についての研修を行い、理解を深めることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域包括支援センターの職員を講師に招いて講義をしていただいたり、法人主催の勉強会の中で「高齢者虐待防止について」を学ぶ機会を持つように取り組んでいる。職員も事業所内での虐待が見過ごされることが無いように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム連絡協議会の主催のブロック研修会の中で権利擁護についての研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては利用者様の立場に立ち、利用者様やご家族に不安が無いように対応を行っている。十分な説明を行い不安や疑問点を残し契約されないように時間をかけて説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、ご家族が不安や要望を管理者、職員に伝えられるように常に問いかけし意見を出せる信頼関係に努めている。金銭管理についても定期的に報告し、面会時には閲覧して頂くようにしている。	ホームは、毎月の便りや写真を送付するなど利用者の状態を家族へ伝えている。年1回の家族会や行事参加時などに家族へ要望を聞いている。年2回の介護相談員の受け入れもあり、整理整頓し避難通路を確保するなど運営やケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・各ユニット責任者は定期的に会議を持ち職員の意見や要望を聞き運営者の指示、方針を伝えている。必要な意見や提案は母体の施設長に報告・相談を行っている。	管理者や各ユニット計画作成担当者は、月1回のミーティング時に職員の意見を聞ける場を設けている。非常勤の職員には、年1回の契約更新時に個人面談をしている。管理者は、必要に応じ、母体の施設長へ相談し、ケアに反映させるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格所得に向けた支援を行い取得後は本人の意向を重視しながら職場で活かせる労働環境づくりに努めている。職員の健康を保つため健康診断(夜勤者は年2回)を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員が意欲的に働けるように、外部研修など順番に参加できるように取り組んでいる。毎月、法人内の勉強会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会の研修会や事例検討会に参加している。他のグループホームへの見学や事例検討などを通して、事業所外の意見をや経験をケアに活かしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集を密にし、ご本人の不安、要望等を把握し、計画を立ててご本人が安心して生活できるように努めている。また、受け持ちを決め心に寄り添う事で新しい生活に早く慣れて頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の抱えている心配事、要望等に真心を持って傾聴し共に考えていく姿勢で臨み信頼を得よう努めている。また、入所当初は、生活の様子を電話等でお知らせしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の家族から知り得た情報を元に今、必要としている支援を見極め、統一した支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、食器洗い、テーブル拭き、居室の掃除等、ご本人が出来る部分は職員と一緒に、役割意識を持って頂くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	不穏時や病気等ご家族の協力を得なければならぬような時は、電話や手紙でお知らせし協力を得ている。誕生会や運動会、家族会、敬老会、餅つきなど各行事時も参加して頂き喜びや安心感を得るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身内や知人などの面会時は、写真を撮ったり、写真を部屋に貼ったり、写真集に収めたりして見て頂いている。時々、出生地訪問やお墓参りなどで記憶を辿って頂くなどしている。	面会時にゆっくりと過ごしていただく工夫や遠方の家族と電話で話をするなど個々に応じて支援している。馴染みの人や場については、家族の面会時や日頃の関わりの中で把握するよう努めている。	ホームは、馴染みの人や場の関係について、家族会や日頃の生活の中で情報収集し、書式を統一することで個々に応じたケアが充実できることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌、ボール遊び、輪投げなど時々皆で拍手や声援を送ることで気持ちを通い合わせている。トラブルにならないようテーブル席の配置なども考えている。家族的雰囲気が保てるように考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたらご家族とは疎遠となり、年賀状を出す程度である。時々、他施設や病院へ行かれた方の現状についての電話などやり取りする事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴したり、日常会話の中からその方の思いや希望、意向の把握に努めている。困難な場合はご家族の意向も反映しながらご本人本位に検討している。	職員は、朝の挨拶時や入浴時に本人の意向や思いを把握している。ケース記録簿に記載し、申し送り時に全職員が周知し、ケアにあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方、サービス利用経過については、ご本人もあいまいでご家族もはっきりと分かっておらず、情報不足な場合も多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や、バイタルサインチェック、ケース記録、申し送りなどを介し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のミニカンファレンス、月1度のユニットミーティング、担当者会議等で意見を出し合い、見直し、現状に即した介護計画を作成している。	プランは、利用者や家族の要望を踏まえて作成している。計画作成担当者は、職員の意見を取り入れたモニタリングを毎月行っている。	プラン作成時やカンファレンスでは、主治医の意見も取り入れプランに反映されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や結果は記入するように職員には申し送っている。気づきなどはその都度、記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様とご家族が安心して暮らし続けていくために必要な臨機応変な対応を心掛けています。例えば、通院、外泊、墓参り等ご本人、ご家族の意向に沿えるよう柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して地域で暮らしていけるために、消防署と協力して通報・避難・消火訓練を行っている。運営推進委員会に地域包括支援センターの職員が参加することで周辺情報や支援に関する情報交換、協力体制を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかっていたかかりつけ医は継続して医療を受けて頂いている。	月1～2回の協力医の往診のほか、入居者の利用者や家族の希望するかかりつけ医に受診している。通院は主に計画作成担当者が同行しているが、受診結果については、電話や便りなどで家族へ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に情報や気づきを伝え、相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。看護師は電話でかかりつけ医に相談し、指示を受ける時もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、毎日、早出・遅出勤務者がお見舞いに行き、安心して頂いている。必要時は、病院関係者に相談したり情報を得たりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームとしての看取りに関する指針を定め家族の同意を頂いている。ご本人やご家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり安心して最後を迎えられるように随時、意思を確認しながら取り組んでいる。	重度化や終末期のケアについては、入居時に本人や家族と話し合い指針と意見確認書を交わしている。入居継続については、随時、家族と主治医で話し合い、ホームでできる事を口頭で伝え対応している。	全職員で指針内容を確認し今ホームで出来るケアの把握を望みます。又、定期的に勉強会を行い、最善のケアができることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し緊急対応に備えている。ヒヤリハットを職員全員で確認し事故防止に努めている。法人内の勉強会に消防署の方を招き緊急時の講義を行って頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した実践的な訓練(消防署への通報訓練・一部避難訓練・消火訓練)を行っている。年1回は消防署との合同火災訓練を行っている。その際、ご近所の方にも参加して下さるように声掛けを行っています。	2ヶ月毎に、夜間想定で自主訓練を行っている。今後、災害用スロープでの実施訓練や地域住民との合同訓練を予定している。	自主訓練での改善点を記録し、次回の訓練に活かし地域住民が参加することで災害時の役割分担を明確にし、取り組むことを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として尊敬の念を持って対応したり言葉かけするようにしている。言葉遣いや対応が悪い時など、ミーティングなどでお互い注意し反省し、話し合っている。	利用者との日頃の関わりの中から気持ちをくみ取り、職員は対応している。居室へ入る時はノックをするなどプライバシーを損ねない接し方に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に目を向け、どのような希望があるか、どのようにしたいかなど、相手を思いやり、優しく接し傾聴することで、自分の気持ちを表に出したり、自己決定が出来るような雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様を優先に日々を過ごして頂いてはいるが職員の数や時間に余裕がない時は希望に沿った支援が出来ていないことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服やスカーフ、帽子などお似合いの物や希望の物を取り入れおしゃれして頂いている。お好きな色、柄などを身に着けられた時は1日中弾んだ表情で過ごされています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介護度が高くなり一緒に食事の準備や片付けが出来方が少ないが、出来る方にはテーブル拭きや食器洗いをして頂いている。職員も一緒に揃って食事を摂り見守りや会話で楽しい雰囲気づくりに努めている。	調理専属の職員を配置し、提供している。利用者の能力に合わせて、食器選びや盛り付けなどを職員と共にやっている。週1回は、刺身を献立に取り入れるなど食事を楽しむ工夫ができています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食、刻み食、ミキサー食、流動食など入居者様に合った食事形態で提供している。水分もお茶以外にジュース、ゼリーを作りその方のお好きな飲み物を提供し、1日1500mlを確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に応じた支援で口腔ケアを行っている。うがいにはお茶を使用しさらに清潔を保って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁のある方も、トイレに座られると排尿が見られる事もあるので、誘導でトイレでの排泄を試みている。なるべくオムツ、パットの使用を減らし清潔が保てるように支援している。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、トイレへ誘導している。職員は、新商品を取り入れたり、使用方法の勉強会を予定するなどオムツやパットの使用が減るよう話し合い、ケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品や朝の冷たい牛乳・ヨーグルトなどおやつでの工夫で十分な水分摂取を心掛けている。また、少しでも歩行可能な方には車椅子使用のみではなく歩行して頂き、運動量を増やし便秘予防に努めている。排便困難な時には主治医に相談し対処している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、皆様楽しんでくださっている。拒否が見られる時は、時間をずらしたり翌日に入浴して頂いたりと、配慮している。しかし、入浴曜日や時間帯は職員で決めている。	ユニットにより、大浴場やリフト浴を設備しており、週3回程度の温泉浴を実施している。必要に応じて、同性の入浴支援を行うなどの配慮がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	平均年齢92歳と高齢の方が多いため昼食後はお昼寝の時間を設けている。決して強制ではなく、ホールで過ごされる方もおられる。寒い日は、湯たんぽを使用して頂いたり入居者様が安眠できるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の処方箋をケース記録台帳に保管し職員が内容を把握出来るようにしている。服薬時はご本人に手渡し服薬できているか確認をしている。また、誤薬が無いように複数の職員で確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器洗い、テーブル拭き、歌の先導役をお願いすると、生き生きとして張り合いを感じておられる。暖かい日は苑の周辺を散歩・散策にお連れしている。2ヶ月に1回の鉄板焼き、誕生会のすし飯を楽しみにされている。レクリエーションも一日を通して力を入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があり、時間が許す限り、短時間ではあるが散歩、ドライブなどにお連れしている。遠出は高齢の為、疲労感が残るので積極的には行っていない。近くの川添で全員揃ってのお花見を恒例とし、楽しみにされている。	天気に合わせて、駐車場や庭先のベンチで外気浴に触れる支援をしている。家族の協力もふるさと訪問や理容室へ行くなどの支援をしている。	日々の関わりの中で本人の希望を抽出し、さらに個別支援が実現できることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、ご家族や本人の安心・満足に向けて所持して頂いている。買い物に行く際も、ご本人に同行して頂き好きな食べ物や嗜好品を選んで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	送り物が届いた時は、ご本人に電話でお礼が言えるように支援している。希望時は電話の取次ぎをしてお話して頂いている。直筆で年賀所を書き家族に出されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花を活けたり、絵を飾ったりして季節感を感じて頂いています。室内に新鮮な空気が流れるように換気に注意しています。また、掃除も徹底して行い入居者様に気持ち良く過ごして頂けるように努めています。	職員は、毎朝換気を行い共用空間の清掃をし、美化に努めている。本人が自由にくつろげるスペースへ声掛けしたり、テーブルの配置を変えるなど居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	見守りをする中で、独りになられる空間や、ゆっくりとテレビが見られる環境づくりに心がけています。気の合う入居者様との会話が弾むように席を設けたりして居場所の工夫を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや鏡台、家族写真、お花、位牌などを置かれて生活されている。受け持の職員が中心となり居心地の良いお部屋づくりをしてはいるがご家族と相談しながらあと一工夫したいと思っている。	ホームは、個人の思い思いの品々を持ち込むように家族へ働きかけている。利用者の安全を考慮し、必要に応じて、掲示物をテープで張り付けるなどの工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行できる方にも、車椅子の方にも安心、安全に生活して頂けるような環境づくりに努めている。介護度が高くなり車椅子使用も増えてきた現在、風呂場やトイレが狭く移動が困難な為、改善が必要となってきている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示したり職員会議やユニットミーティングにおいて理念の取り組みについて話し合い共有をはかっている。職員は、日々一人ひとりの利用者様が笑顔で過ごせるように努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の人と出会った時は気軽に挨拶や会話をしている。ホーム内の敷地で夏はバーベキュー大会、冬は庭で餅つき・そば打ちを行い老人会、子供会、地域住民の方が参加している。保育園の運動会や法人開催の夏祭りへの参加、中学生の職場体験など地域との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の相談や見学、職場体験の受け入れを行い人材の育成の貢献などを行っている。地域交流の中でいろいろお話させていただき地域貢献が出来ないか検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行われホームの状況・利用者様の様子・行事活動など報告しメンバーで質疑応答をしている。地域のメンバーからのアドバイスで地域の老人会との交流に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催で市町村担当とは、相談や報告など話し易い関係にある。霧島市主催の健康福祉祭りには市と共同で準備をし、共に参加している。地域包括主催の研修会にも参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人主催で身体拘束委員会を開催しその中で事例を交え取り組んでいる。職員は鍵を掛けることの弊害を理解して、居室や玄関に鍵を掛けないケアに取り組んでいる。職員は出掛ける傾向のある方を把握し、見守りの対応をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	地域包括支援センターの職員を講師に招いて講義をしていただいたり、法人主催の勉強会の中で「高齢者虐待防止について」を学ぶ機会を持つように取り組んでいる。職員も事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム連絡協議会の主催のブロック研修会の中で権利擁護についての研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては利用者様の立場に立ち、利用者様やご家族に不安が無いように対応を行っている。十分な説明を行い不安や疑問点を残し契約されないように時間をかけて説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、ご家族が不安や要望を管理者、職員に伝えられるように常に問いかけし意見を出せる信頼関係に努めている。金銭管理についても定期的に報告し、面会時には閲覧して頂くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・各ユニット責任者は定期的に会議を持ち職員の意見や要望を聞き運営者の指示、方針を伝えている。必要な意見や提案は母体の施設長に報告・相談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格所得に向けた支援を行い取得後は本人の意向を重視しながら職場で活かせる労働環境づくりに努めている。職員の健康を保つため健康診断(夜勤者は年2回)を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員が意欲的に働けるように、外部研修など順番に参加できるように取り組んでいる。 毎月、法人内の勉強会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会の研修会や事例検討会に参加している。 他のグループホームへの見学や事例検討などを通して、事業所外の意見をや経験をケアに活かしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	好きなこと、嫌いなことを尋ね、好きな事から馴染んで頂けるように、また職員が利用者様間に入り会話が楽しめるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族の要望を尋ね職員に相談しやすい雰囲気にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時などに担当する職員が現在の状況など話している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事を職員と一緒にして頂きながら一緒に生活している者としての関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族への状況説明や、活動中の写真を送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	保育園の運動会、地域交流会、餅つき等地域の方々を交えての支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	穏やかに生活が送れるよう職員が気を配りながら利用者様同士の相性、その時の状態によって座席の位置を替え、良い関係が保てるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を移られた時、関係者に対してご本人の状況やケアの工夫等伝えたり、面会に行って連携を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での言葉や仕草などに注意しながら把握するように努めている。困難な場合は、ご家族や周りから情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、入所時におおまかに把握はしているがご家族や知人の面会時に近況を説明しながら情報を集めている。また、利用者様の発した言葉のより生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事の盛り付け、食器洗い、洗濯物を畳んだり等その方に合ったお手伝いをして頂くように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングなどで現状把握を行い、ご家族の要望などを交えて話し合い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が気付いた事を職員間で話し、実践し利用者様が快適に過ごして頂けるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様とご家族が安心して暮らし続けていくために必要な臨機応変な対応を心掛けています。例えば、通院、外泊、墓参り等ご本人、ご家族の意向に沿えるよう柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して地域で暮らしていけるために、消防署と協力して通報・避難・消火訓練を行っている。運営推進委員会に地域包括支援センターの職員が参加することで周辺情報や支援に関する情報交換、協力体制を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは連携が出来ており情報提供を元に相談を行い適切な医療が受けられるように支援している。また、診察結果はご家族に報告をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の身体状況に変化があった時は、職場の看護師に相談したり、担当医に電話で指示を頂けるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は職員が交代で面会を兼ねて洗濯物を取りに行ったりしている。病院関係者や地域連携室と連携を図り情報交換を行い、退院に向けての支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームとしての看取りに関する指針を定め家族の同意を頂いている。ご本人やご家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり安心して最後を迎えられるように随時、意思を確認しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し緊急対応に備えている。ヒヤリハットを職員全員で確認し事故防止に努めている。法人内の勉強会に消防署の方を招き緊急時の講義を行って頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した実践的な訓練(消防署への通報訓練・一部避難訓練・消火訓練)を行っている。年1回は消防署との合同火災訓練を行っている。その際、ご近所の方にも参加して下さるように声掛けを行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まずは利用者様の気持ちを定説にし、さりげないケアに心掛け自己決定しやすい言葉かけに努めている。 職員は個人情報について守秘義務を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた声掛け、説明を行い利用者様自身の思いや希望が少しでも引き出せるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日には苑外散歩等への声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が可能な方にはご本人に洋服を選んで頂いている。職員が支援する場合は、その方に合った洋服を選んでいきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の説明をしながら一緒にテーブルで職員も食事を摂り、嗜好をお聞きしている。後片付けも一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合った食事形態で提供している。摂取量も食べ過ぎが無いように気を付け盛り付けをしている。水分がなかなか摂れない方には飲み物の種類を変え摂取して頂けるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれ声掛けを行い、ご自分で出来る方にはして頂き、介助が必要な方には職員が声掛けを行いながら支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、出来るだけトイレを使用した排泄が出来るように支援している。バットの使用量を減らす為の職員間での話し合いも行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレ誘導を行い、暫く座って頂いている。排便が2日ない方は、主治医からの処方の下剤を服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんで頂けるように、無理強いせずご本人の体調、気分に合わせて声かけを行っている。ご自分で出来るところは行って頂き、出来ない所や届かない所は職員で支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後等、自室でしばらく休んで頂いている。眠剤が処方されている方でも良く休まれる方に関しては服用を止めて様子観察を行っている。(その旨、主治医には報告している)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後、職員がご本人の手に出して差し上げたり口の中に入れて差し上げたりしている。確実に飲み込んだことを確認している。また、処方箋にも目を通してしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付けや食器洗いなどの役割を持って頂き、張り合いのある日々を過ごして頂くように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お願いできそうな事を頼み、して頂いた時は、感謝の言葉を伝えるようにしている。お正月の初詣でや天気の良い日は、ドライブなど利用者様と一緒に出かけられるように心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、ご家族や本人の安心・満足に向けて所持して頂いている。買い物に行く際も、ご本人に同行して頂き好きな食べ物や嗜好品を選んで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて家族への電話を掛けたり、手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や絵、写真などを飾って季節感や雰囲気作りに心掛け、居心地良く過ごして頂けるように工夫している。また、窓にはブラインドやフィルムで光の調整を行い、テレビの音量にも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子や畳の配置を行い、一人ひとりが思い思いに過ごして頂けるような居場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真などを入所時に持って来て頂き、それぞれの利用者様が居心地良く過ごして頂けるような工夫を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の残存機能を生かした安全な環境作りに努め、安全確保と自立機能を損なわないように配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示したり職員会議やユニットミーティングにおいて理念の取り組みについて話し合い共有をはかっている。職員は、日々一人ひとりの利用者様が笑顔で過ごせるように努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の人と出会った時は気軽に挨拶や会話をしている。ホーム内の敷地で夏はバーベキュー大会、冬は庭で餅つき・そば打ちを行い老人会、子供会、地域住民の方が参加している。保育園の運動会や法人開催の夏祭りへの参加、中学生の職場体験など地域との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の相談や見学、職場体験の受け入れを行い人材の育成の貢献などを行っている。地域交流の中でいろいろお話をいただき地域貢献が出来ないか検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に開催しホームの状況・利用者様の様子・行事活動など報告しメンバーで質疑応答をしている。地域のメンバーからのアドバイスで地域の老人会との交流に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催で市町村担当とは、相談や報告など話し易い関係にある。霧島市主催の健康福祉祭りには市と共同で準備をし、共に参加している。地域包括主催の研修会にも参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人主催で身体拘束委員会を開催しその中で事例を交え取り組んでいる。職員は鍵を掛けることの弊害を理解して、居室や玄関に鍵を掛けないケアに取り組んでいる。職員は出掛ける傾向のある方を把握し、見守りの対応をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域包括支援センターの職員を講師に招いて講義をしていただいたり、法人主催の勉強会の中で「高齢者虐待防止について」を学ぶ機会を持つように取り組んでいる。職員も事業所内での虐待が見過ごされることが無いように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム連絡協議会の主催のブロック研修会の中で権利擁護についての研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては利用者様の立場に立ち、利用者様やご家族に不安が無いように対応を行っている。十分な説明を行い不安や疑問点を残し契約されないように時間をかけて説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、ご家族が不安や要望を管理者、職員に伝えられるように常に問いかけし意見を出せる信頼関係に努めている。金銭管理についても定期的に報告し、面会時には閲覧して頂くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・各ユニット責任者は定期的に会議を持ち職員の意見や要望を聞き運営者の指示、方針を伝えている。必要な意見や提案は母体の施設長に報告・相談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格所得に向けた支援を行い取得後は本人の意向を重視しながら職場で活かせる労働環境づくりに努めている。職員の健康を保つため健康診断(夜勤者は年2回)を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員が意欲的に働けるように、外部研修など順番に参加できるように取り組んでいる。毎月、法人内の勉強会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会の研修会や事例検討会に参加している。 他のグループホームへの見学や事例検討などを通して、事業所外の意見をや経験をケアに活かしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活状況を把握しご本人が安心して入所されるよう、相手の気持ちになって考える事ができるよう心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等の相談に対しては、ご家族の話や心配事、不安を受け止め要望に耳を傾けながらグループホームとして出来る対応の助言をしている。即、対応の出来ない時は代替え方法の助言を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提供、相談を繰り返しその中で信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるように努めている。可能な限り柔軟な対応を行い、他の事業所やケアマネジャーにつなげるなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活を共にしている事を感じながら側面からの援助を心掛けています。利用者様同士の助け合いや人生の先輩として尊敬を持ちながら信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、ご家族と情報交換を行いご本人を共に支え合う者としてご家族との関係を築いていけるように心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人をお連れしてお墓参りやご自宅訪問等を行っている。馴染みの方や遠方にご家族がお住まいの方などは電話等で会話して頂き、関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットの共同生活の中で、穏やかに生活できるよう職員が気を配りながら努めている。利用者様同士の相性やその時の状態によってはホールでの座席の位置を変え、良い関係が保てるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も継続的な関わりを持っている。家族からの相談等受け、関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けを行い把握に努めている。日々の生活の中では言葉遣いに注意し、思いや意思の気付きを大切にしている。困難な場合はご家族や周りからの情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、入所時には大まかに把握しているが不十分である為、家族や知人の面会時に情報を集めている。また、ご本人の発された言葉や会話の中で生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活のリズムを理解し行動や動作から感じ取り、本人の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様が本人らしく暮らし続けられるために、ご本人・ご家族に意向をお聞きし介護計画書の中に取り入れ作成を行う。申し送りやユニットミーティングなどにて状態の把握に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の言動を詳細に個別のケア記録に残している。申し送り・ユニットミーティング等で職員全員が情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様とご家族が安心して暮らし続けて行くために必要な臨機応変な対応を心掛けています。例えば、通院、外泊、墓参り等ご本人、ご家族の意向に沿えるよう柔軟に支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らしていけるために、消防署と協力して通報・避難・消火訓練を行っている。運営推進委員会に地域包括支援センターの職員が参加することで周辺情報や支援に関する情報交換、協力体制を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望されるかかりつけ医となっている。事業所の協力医の他、利用者様の入所前からのかかりつけ医でも継続して診療を受けられる体制になっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算体制の看護師や担当ケアマネジャーを中心として、24時間相談が出来るように体制を取っている。体調や些細な表情の変化を見逃さないように早期発見に取り組んでいる。変化に気づいたときは看護師に報告し適切な対応につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に、ご本人の状況を情報提供し職員のお見舞いも頻繁に行っている。また、職員との関係が希薄にならないようにこまめに洗濯物を預かりに行ったりして支援している。ご家族とも情報交換を行いながら入院先の地域連携室との情報交換を密にして早期退院が出来るように結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームとしての看取りに関する指針を定め家族の同意を頂いている。ご本人やご家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり安心した最後を迎えられるように随時、意思を確認しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し緊急対応に備えている。ヒヤリハットを職員全員で確認し事故防止に努めている。法人内の勉強会に消防署の方を招き緊急時の講義を行って頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した実践的な訓練(消防署への通報訓練・一部避難訓練・消火訓練)を行っている。年1回は消防署との合同火災訓練を行っている。その際、ご近所の方にも参加して下さるように声掛けを行っています。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は個人情報について守秘義務を図っている。介助時もご本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心掛けている。自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合った声掛けや説明を行い、ご本人の思いや希望が少しでも引き出せるように心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まってはいるが、ご本人にどうしたいかを決めて頂いている。一人ひとりのペースと意思を尊重した支援を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所前に利用されていた理容・美容院になるべくお連れするようにしているが、今は殆ど理容室の方に来て頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の希望をお聞きして嗜好に合った食事と季節感を味わえる物を提供している。週一回はお刺身をメニューの中に取り入れ楽しさを持って頂いている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の状況を毎日確実に記録し、職員が情報を共有して必要量が摂取できるよう努めている。ご本人の嗜好を捉え食事形態など柔軟な対応を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状態に合わせて毎食後、口腔ケアを行っている。自分で出来る方は見守りをし、出来ない方に関しては個別に支援を行っている。口腔に問題が生じた時は、訪問歯科等で対応している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、さりげない排泄誘導を行い出来るだけトイレを利用した排泄が出来るように支援している。パット類もご本人合わせ検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便秘の方には牛乳やヨーグルト等で工夫し個々に働きかけている。排便困難時は、主治医に相談し整腸剤、下剤等内服にて、排便調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉浴を十分楽しんでいただけるように、ご本人の希望を確認しながら個別に対応している。入浴日は決まってははいませんが個々に応じた入浴を支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも居室やホールでゆっくり休息して頂けるように、照明・生活音等の調整を行っています。居室の温度・湿度にも気を付けて気持ち良く休息が出来るように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の処方箋をケース記録台帳に保管し職員が内容を把握出来るようにしている。服薬時はご本人に手渡し服薬できているか確認をしている。また、誤薬が無いように複数の職員で確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様にお願いできそうな仕事を頼み、一緒に行っている。外出や行事参加の楽しみ事を利用者様にお聞きしながら参加している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの気分や希望に応じて、散歩や外出の機会を作り気分転換が出来るように配慮している。年一回の初詣でなどは出来る限り全員の方をお連れしている。家族の方にも協力を頂いている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、ご家族や本人の安心・満足に向けて所持して頂いている。買い物に行く際も、ご本人に同行して頂き好きな食べ物や嗜好品を選んで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が、ご家族に電話を掛けたり、取り次いだりができるよう支援を行っている。月一回は近況報告を兼ねて写真を同封している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には、季節感や日常の生活が感じられるよう工夫をしている。窓にはブラインドやフィルムで、光の調整を行ったり音楽・テレビなどの音量に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同の空間で独りになれる場所はないが玄関やホールに椅子やソファを設置し利用者様同士の関係性などに配慮した共同空間作りを行っている。落ち着いてくつろげるスペース作りに取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に使い慣れた馴染みの物を持って来て頂くようお願いして、その人らしく生活して頂けるように配慮している。使い慣れた目覚まし時計などを持ち込んで頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活において状況を見極めご本人の力で混乱や失敗が無いように環境整備を行ったり援助をしている。少しでも出来る事を支援し不安なく生活できるように努めている。		